

■徳川頼宣 徳川家康の十男で紀州徳川家の祖。慶安の変で謀反の疑いかけられ、生殺しの後半生。

とくがわよりのぶ

東本願寺創建1602＝ 京都伏見城で、生まれる。母は側室のお万の方(養珠院)。幼名は長福丸、
阿国歌舞伎始1603＝ 1歳：常陸国水戸藩20万石を与えられる。水戸には入らず、父家康の許で育てられた。
糸割符法始・1604＝ 2歳：5万石を加増。
江戸城完成・1606＝ 4歳：家康に従い京都に上り、元服して頼将(よりのぶ)と名乗る。従四位下常陸介に叙任。
家康駿府退隠1607＝ 5歳：

島津琉球支配1609＝ 7歳：肥後熊本藩主加藤清正の五女八十姫と婚約。
琉球使始・・・1610＝ 8歳：駿府藩50万石に転封された。
山田長政渡航1611＝ **9歳**：家康と豊臣秀頼が京都二条城で会見を行った際は兄の徳川義直と共に東寺まで出迎え、のち、義直と共に返礼の名代として大坂城の秀頼を訪問。従三位参議左近衛権中將に昇叙転任。その後、参議辞職。
父家康は晩年、頼宣を最後まで手元に置き自ら薫陶を与えて育てた。まだ幼いにも関わらず馬に乗せ、小川を飛び越えるように強要し、落馬して入水しても家康は放置した、と伝わる。
大坂冬の陣・1614＝12歳：父である大御所家康自らが鎧初めを行う、特別な扱いを受けて、大坂冬の陣で初陣を飾り、
大坂夏の陣・1615＝13歳：大坂夏の陣では天王寺・岡山の戦いで後詰として活躍。この時、先陣を希望するも却下されると、涙を流して悔しがり、松平正綱が‘まだお若いから、これから機会は何度でもありましょう’と慰めると、‘14歳が二度あるのか’と怒ったというのを聞いた父家康は頼宣を褒め、諸大名も感嘆した、と伝わる。
徳川家康没・1616＝14歳：5年前に清正が、この年、父家康も死去するが、かねてからの約束により、
吉原遊郭始・1617＝15歳：加藤清正の五女八十姫(瑠林院)を正室とする。権中納言に転任するが、すぐに辞任。
菱垣廻船始・1619＝17歳：元和年中に頼信、さらに頼宣に表記を改め、
支倉常長帰国1620＝**18歳**：***紀伊国和歌山55万5千石に転封、紀州徳川家の家祖となる。**

この転封は、二代將軍の秀忠が父の家康の遺風に対抗し、全ては我が権威の下であるということを天下に示すためであったとも言われている。駿府に秀忠の次男徳川忠長に配して駿河藩55万石としたのも、御三家から駿府を奪い、我が子に与えることで、家康の権威より自分のほうが格上であるとする意思表示であったとする説がある。西国転封の際、頼宣は再建成った大阪城を領することを願ったが、かなえられなかったと伝わり、また、入国の前に家臣を派遣して、以前の領主浅野家に対する領民の不満などを調査させている。入国後は、和歌山城の改築、城下町の整備など、紀州藩の繁栄の基礎を築いた。また、地元の国人を懐柔する地土制度を実施した。さらに、浪人問題を解消すべく多くの対策を打ち出した。

徳川家光將軍1623＝21歳：
人身売買禁止1626＝24歳：従二位権大納言に昇叙転任。
紫衣事件・・・1629＝**27歳**：
徳川秀忠没・1632＝30歳：

参勤交代始・1635＝33歳：この年、肥後国熊本藩主加藤忠広に仕えていた惺窩門四天王の一人那波活所を儒臣に抱える。
頼宣は様斬(ためしぎり)を好み、自ら囚人を試し斬りした後、家来一同に‘さてさて、この名刀や、かくの如き切り手は日本はおろか、唐天竺にもあろうか?’と問うたところ、那波活所が‘名刀ならば唐には干将莫耶という名剣があります。また人を殺すことを楽しんだ王なら殷の紂王など悪王がおります’と答え、‘およそ殺人を面白がるのは禽獣の仕業。人間の行いではありません’と諫言。以後、試し斬りをやめたという。
島原の乱終・1638＝**36歳**：

明滅亡・・・1644＝42歳：明が滅亡、
・・・1646＝44歳：明の遺臣鄭成功から日本に援軍要請があったが、これに応じることに積極的であったともいう。
・・・1647＝**45歳**：
市中諸法度・1648＝46歳：この年、那波活所が死去。

御蔭参流行・1650＝48歳：將軍家光の叔父で頼宣の兄である尾張の徳川義直が死去し、格上の將軍家綱がしかし幼少であることから徳川一族の長老となり、戦国武將的な性格からも幕政を司る幕閣には煙たい存在となっていく。
徳川家光没・1651＝49歳：*慶安の変で、由井正雪が頼宣の印章文書を偽造していたため、幕閣から謀反の疑いをかけられ、江戸城に呼び出されて、正雪との関係を詰問され、頼宣は‘外様大名の加勢する偽書であるならともかく、自分の偽書を使うようなら天下は安泰である’と意外な釈明をし、嫌疑を晴らしたが、その後も江戸に拘束され、

・・・1656＝**54歳**：
明暦の大火・1657＝55歳；
・・・1660＝58歳：*疑いは晴れて無事帰国したが、いまだ拡張整備中だった和歌山城増築は中止させられた。

諸宗寺院法度1665＝**63歳**：
酒井忠清大老1666＝64歳：
入鉄砲出女令1667＝65歳：嫡男光貞に跡を譲り、***紀州藩主としての治世は47年9か月で、隠居。**
覇気に富む人柄であったと伝えられ、この間の江戸参府19回、紀州帰国18回、紀州在国の通算は21年10か月であった。更に隠居期間が3年7か月あり、この間の江戸参府1回、紀州帰国2回して、
・・・1671＝69歳：没した。